

日本共済協会30周年 1
J A 共 済 連

日本共済協会は今年4月1日、結成30周年を迎えた。同協会の前身となる共済保険研究会の設立は1960年5月で、共済保険研究会を改組する形で1992年4月1日に同協会が発足した。会員団体は現在、正会員13、第I種賛助会員1、第II種賛助会員4の合計18団体となっている。30周年を記念して、会員団体の最新事情と今後の展望取材した。1回1団体ずつ掲載する。

ひと・いえ・くるま・農業の4分野

保障と包括的な安心提供

J A共済連は、農協の共済事業として1951年に事業を開始した。事業開始以来70年以上にわたり「一人は万人のために、万人は一人のために」という相互扶助(助け合い)の理念のもと、組合員・利用者が、豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに取り組んでいる。組合員・利用者の生活を取り巻くさまざまなリスクに対する幅広い保障(ひと・いえ・くるま・農業の保障)を提供するだけでなく、それぞれの「リスクの未然防止」と「リスク発生後の支援」に資するサービスや地域貢献活動に取り組むことで、組合員・利用者

多くの契約を保有する。また、J A共済連では、ひと・いえ・くるま・農業それぞれの分野に関する「リスクの未然防止」や「リスク発生後の支援」に資するサービスや地域貢献活動にも積極

型の実験装置とVRを用いて地震をリアルに体感することで災害対策の必要性を学べる「防災教室」や被災後の支援として「災害シートの無償配布」「仮設住宅の無償貸与」などを、くるま分

SDGs、組合員とのつながり強化

また、いついかなる時も、組合員・利用者に安定的に確かな安心を届けるため、電話やオンライン面談システムによる契約内容の確認や生活変化などを伺う3Qコール活動に積極的に取り組む

さらに高齢者対応も強化している。保障の提案や契約の手続きに関しては、親族に同席してもらうなどの丁寧な対応を行うことはもちろんのこと、シニア向けのサービスや地域貢献活動として、看護師・ケアマネジャーなどによる健康相談ができる「健康・介護ほっとライン」の開設や、介護・認知症予防に関するお役立ちコンテンツ

また、J A共済では、令和4年度から令和6年度J A共済3か年計画において、大きな環境変化のなかにあっても、変わらぬ安心を提供

し続け、「農」や「くらし」の未来に向けて、地域とともに支えていくことを目指して、「新たな時代に、変わらぬ安心を」地域とともに、農とくらしの未来を支えるJ A共済」をスローガンに掲げている。

リスクへの包括的なサポート展開

提供する共済仕組みとしては、ひとの分野では、生涯の死亡保障「終身共済」、病気やケガに備える「医療共済メディフル」、老後の生活資金に備える「予定利率変動型年金共済ライフロード」、子どもの教育資

金に備える「こども共済」などを、いえの分野では、火災や地震などの自然災害に備える「建物更生共済むてきプラス」などを、くるまの保障としては、自動車事故による賠償やケガ、修理に備える「自動車共済クルマスター」などを提供。農業の分野では、農業者が安心して安定的な事業・生活基盤を築けるよう、

的に取り組んでいる。ひと分野では、健康維持・増進を目的とした「げんきなカラダプロジェクト」の展開や「笑いと健康教室」の開催などを、いえ分野では、椅子

野では、幼児・生徒・シニア世代向けの「交通安全教室」や交通事故被害者の社会復帰支援のための「リハビリテーションセンター」の開設などを実施。また、農業分野

J A共済連は、「保障サービスの提供や地域貢献活動などの事業活動を実施し、J A共済の事業基盤である農業と地域社会の持続可能性を確保する」というSDGs取

とともに、店舗に出向かなくても、いつでもどこでも、契約者が契約内容の確認、住所や電話番号の変更などの手続きができる「Webマイページ」、被災・事故の連絡

機能や日常のお役立ちコンテンツを提供する「J A共済アプリ」などの非対面コミュニケーションツールを展開している。一方、コロナ禍でも、健康的に過ごしてもらうための各種お役立ちコンテンツを提供しており、進捗活動の一環として2021年11月から1月に開催したオンラインウォーキング大会「げんきなカラダWALK」には約9000人も参加があった。

また、J A共済では、令和4年度から令和6年度J A共済3か年計画において、大きな環境変化のなかにあっても、変わらぬ安心を提供

し続け、「農」や「くらし」の未来に向けて、地域とともに支えていくことを目指して、「新たな時代に、変わらぬ安心を」地域とともに、農とくらしの未来を支えるJ A共済」をスローガンに掲げている。



青江会長



「認知症共済」と「農業者賠償責任共済ファーマスト」を新設

では、経営を取り巻くリスクの回避・軽減策を提案する「農業リスク診断」や、農作業事故を疑似体験できる「農作業事故体感VR」を活用した事故未然防止学習プログラムの展開を行うなど、包括的な安心を提供している。

また、いついかなる時も、組合員・利用者に安定的に確かな安心を届けるため、電話やオンライン面談システムによる契約内容の確認や生活変化などを伺う3Qコール活動に積極的に取り組む

また、J A共済では、令和4年度から令和6年度J A共済3か年計画において、大きな環境変化のなかにあっても、変わらぬ安心を提供

し続け、「農」や「くらし」の未来に向けて、地域とともに支えていくことを目指して、「新たな時代に、変わらぬ安心を」地域とともに、農とくらしの未来を支えるJ A共済」をスローガンに掲げている。

リスク防止と発生後の支援に取り組む